



浦幌町CS講演会

12月21日(日)、浦幌町総合スポーツセンターにおいて、東京三鷹中央学園から文部科学省CSマイスターの四柳千夏子氏を講師にお招きしてCS講演会を行いました。

四柳氏はこれまで三鷹市内小中学校のPTA会長やCS委員会会長などとして地域とともにある学校づくりに貢献してこられ、全国各地で講演会等の講師として活躍されています。

前夜からの凍結による悪路のため、各所で通行止めになるなどのハプニングがありましたが、町内外から多くの人たちが駆け付け、四柳氏の話に耳を傾けました。

学校運営協議会の仕組みや役割、学校支援の実際、CS導入への期待や心構えなど、地域・保護者の立場で話された四柳氏の講演から多くのことを学ばせていただきました。



(四柳氏が力説したCS推進のポイント)

- ① CSや小中一貫教育は、まさしく保護者や地域が学校に深く関わる「地域とともにある学校」です。
- ② 「辛口の友人」として言うべき事は言いますが、ともに行動する責任が伴います。活動の負担は増えますが、それ以上の意義や成果が子どもから返ってきます。
- ③ 三鷹中央学園では、目指す学園生像を明確にし、学校・家庭・地域、子ども自身がそれぞれミッションを持って実践しています。
- ④ 地域住民にあって、先生方にもないもの、それは地域の人脈です。学校が必要とする人材は草の根を分けてでも探し出し、学校を支援していきます。
- ⑤ 学校運営協議会は合議制の機関であり、特定の個人の意見に偏らないように熟議をし、PDCAサイクルで活動を次につなげていくことが大切です。
- ⑥ ボランティアの人は、子どもたちから「先生」と呼ばれます。大人の姿を子どもたちに見せていくことが大切です。
- ⑦ 「自分たちに何ができるか」を考えることで当事者意識をもつことができます。地域の人たち一人一人が、教育の当事者になってほしい。



講演に聴き入る参加者